

# 第15回熊本県高等学校英語ディベート大会規則

## 1. 大会全般

- 1 本大会には熊本県内すべての高等学校，中等教育学校および高等専門学校（高校1年～3年に該当する生徒）が参加することができます。スピーチ役割分担は4人制とし，参加登録人数は5名もしくは6名とします。試合ごとにメンバーを入れ替えることができますが，試合開始後にメンバーが途中で入れ替わることはできません。
- 2 論題や各ディベーターの役割，審査の判断基準等についてのルールは原則として，九英連主催の九州大会と同じとします。ただし，本ルールと九州大会のルールが異なっている場合には，本ルールを優先します。

## 2. 試合と表彰

- 3 大会は上位4校を決める予選を行い，本選は，予選1位2位チームで決勝戦，3位4位のチームで3位決定戦を行います。
- 4 予選はすべてのチームが肯定側と否定側の両方に割り当てられ，合計4試合行います。原則として予選では，予選第2試合までは対戦済みのチームや同じ学校のチームが対戦しないように配慮します。
- 5 予選での組み合わせは，第1試合，第2試合は，事務局が無作為に決定します。第3，第4試合日は，その前の試合までの順位を元に，なるべく獲得票数が同じチーム同士が対戦する方式であるパワー・ペアリングで対戦相手を決定します。パワー・ペアリングにあたっては，いわゆる「ハイ・ロー原則」を採用します（同じ票数をあげているチーム集合の中では，順位の上位のチームが，できるだけ下位のチームと対戦する原則）。また各予選試合は，2人のジャッジにより審査されます。2人のジャッジは独立して審査し，それぞれが勝ちと判断したチームに一票ずつ投じることとなります。どのジャッジの票も全て等しい価値を持ちます。（仮に，二人の票が割れた場合は，その試合は事実上「引き分け」と見なします。）
- 6 予選通過チームは，以下の基準にしたがって全体の順位を決め，上位4チームとします。ただし不戦勝があった場合は，大会事務局で票数を決定します（補足事項1）。  
第1基準 票数の多いチームは，順位が上となります。  
第2基準 同じ票数の場合，予選で対戦した相手チームの獲得票を合計した数が多いチームの順位が上となります。  
第3基準 票数・相手チーム勝数が同じ場合，不戦勝を除く各試合の平均コミュニケーション点が高いチームの順位が上となります。  
第4基準 以上の三基準全てが同じ場合，不戦勝を除く各試合でそのチームに所属するディベーターがベスト・ディベーター候補を獲得した数の平均が多いチームの順位が上となります。  
第5基準 以上の条件の全てが同じ場合，審査員の立ち会いの下，該当するチームの代表同士のじゃんけんを行い，勝者がより高い順位とします。
- 7 本選では，決勝で勝ったチームが優勝，負けたチームが準優勝となり，3位決定戦で勝ったチームが3位となり，負けたチームが4位となります。本選各試合における勝敗は，3人以上で構成された奇数の審査員の投票により決定し，投票数の多いチームを勝ちとします。
- 8 1位～4位チームに賞状及び盾を授与します。また，個人賞としてベストディベーター賞を1名に授与します。決勝戦における審査員の投票を参考に，決勝戦後の審査員の協議により選出することとします。

- 9 上位2チームは九英連主催の九州高校生英語ディベート大会の出場権を得ます。また、上位チームから順にHEnDA主催の全国高校生英語ディベート大会出場の優先権を得ます。

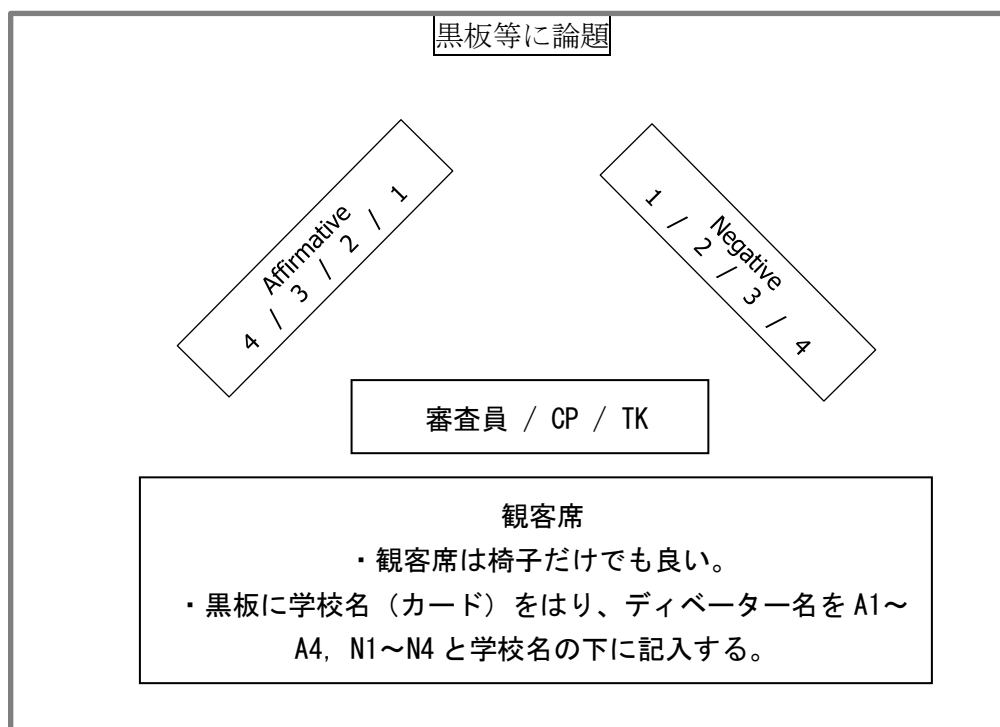
### 3. チームと参加制限

- 10 同一高校に在籍する生徒5名もしくは6名により構成され、4名以下でのチーム登録は原則認められません（メンバーの当日病欠など、不可避の事故的理由がある場合に限り、大会事務局の判断で3名もしくは4名でのチーム登録を許可することもあります）。各チームの登録メンバーは5名もしくは6名とし、以下の制限をつけます。
- ①英語のネイティブ・スピーカーである生徒の参加は禁止します。
- ②以下の条件に該当する生徒は、チームに2名まで登録ができます（出場は各試合1名まで）。
- (1)英語を第1言語とする国で12ヶ月以上滞在経験のある生徒（就学前の滞在は不問）
- (2)英語を第2言語とする国の出身である生徒（就学前の滞在は不問）
- (3)家庭で常用的に英語を使っている生徒
- \*留学生であっても、英語圏からの留学生でないならネイティブ・スピーカー扱いとする必要はありません。原則としては自己申告ですが、明らかに英語がネイティブに近い人間が複数いる場合、クレームが他校や審査員から出てくる可能性があります。そうしたチームが勝った場合は、大会の公平性を鑑み、やむをえず大会中に精査することもあります。
- 11 原則として、大会参加チームが確定した後の登録メンバー変更は一切禁止です。複数チームが出場している学校も、チーム間のメンバーの移動を禁止します。登録時点でのメンバーの当日病欠など、不可避の事故的理由がある場合のみ、大会事務局で協議します。
- 12 各対戦において、チームのディベーター以外の生徒、大会運営補助員となります。補助員については、自分のチームが肯定側の場合は進行の役割を、否定側の場合はタイムキーパーの役割を担います（病欠等で当日4名しかいないチームの補助員は大会事務局が確保します）。
- 13 申し込みの際には、帯同ジャッジを書いて申し込むことを原則とします。帯同ジャッジは、県大会で2回以上のジャッジ経験者、もしくは、高英研が開催する審査員研修会に出席しジャッジの研修を受けた者として（ALT含む）。ただし、その高校に該当者がいない場合は免除されます（大会本部のジャッジが入ります）。また、顧問教師（引率教師）が帯同ジャッジを兼ねてもかまいません。
- 14 上記の10、11の規定に違反することが大会中に判明し、故意であり悪質であると判断された場合、そのチームの行った試合はすべて相手チームの勝ちとし、以降の試合をすべて放棄させるとともに、予選通過資格も剥奪します。また大会後に判明した場合も、賞の返還等を求めます。

### 4. 試合進行

- 15 各試合は以下のようにして行います。予め添付資料1を練習してきてください。
- (1) [準備（5分前）] 進行およびタイムキーパーの係は5分前に着席。試合に出る生徒（以下、出場者）は、5分前には試合会場にはいり、試合準備を始めます。出場者は、校名カードを黒板に貼ってください。また、審査員に見えるように自分の名前を黒板に書きます。
- (2) [試合の開始準備（2分前）] 試合開始2分前に進行役の生徒は、出場者に席に着くように促します。なお、座席は審査員から向かって肯定側は左、否定側は右とします。
- (3) [アナウンス（60秒前）] 試合の60秒前にタイムキーパーはアナウンスを始めます。
- (4) [試合の開始] 時間になったら、進行役は試合を開始します。試合中は、チーム内の役割を交代してはいけません。
- (5) [各スピーチについて] 各スピーチはその場に立って行います。また、各スピーチの役割については、全国大会のルールを参照します。なお、審査への影響とマナーを考慮し、スピーチ中にスピーカー以外の方が話したり、席を立ったりすること控えてください。あまりにひどい場合は審査員が注意します。

- (6) [進行・タイムキーパー] 進行は各スピーチの始まりを宣言し、その時間からタイムキーパーは時間を計り始めます。タイムキーパーは時間を掲示で伝えてください。
- (7) [録音・録画等] 原則として、予選は、肖像権やフェアな対戦の実施を考慮し、原則として録音・録画をすることはできません。このことは試合前に必ずアナウンスします。ただし、互いのチームが認めた場合と大会役員の記録目的の場合はその限りではありません。許可を受けずに録音・録画をしていることが分かった場合は、関係するチームの決勝トーナメントへの出場を認めないこともあります。各学校の指導者は大会をフェアに実施することを念頭に、生徒への指導をお願いします。
- (8) [試合終了後] 試合が終わったら、出場者は互いに対戦相手全員と握手します。
- (9) [審査結果発表] 各審査員はジャッジペーパーに結果を書き、タイムキーパーにジャッジペーパーを渡します。渡された生徒は大会事務局に速やかに届けてください。また、各審査員は、①試合の勝敗と②その理由（簡潔に）、③コミュニケーションポイントを述べます。この①②については、審査員は独立して考え、個別に発表します（審査員の数が偶数で肯定側と否定側で票が割れた場合は、事実上、その対戦は引き分けとなります）。
- 16 対戦会場は下の図のようにします。ただし、教室などによって机が動かせない等の制約がある場合は、大会事務局の指示に従ってください。審査員から遠い方から、コンストラクティブスピーカー(1)、アタックスピーカー(2)、ディフェンススピーカー(3)、サマリースピーカー(4)の順に座ります。進行(CP)、タイムキーパー(TK)は審査員と同じところに座ります。



## 6. 審査

- 17 審査は各審査員が独立して行います。内容を重視し、説得力がある方を勝ちとします。また、試合終了後に勝敗を決めた理由をわかりやすく簡潔に出場者に示すことができるようにしておいてください。基本的には、最も説得的だった主張を、その理由とともに簡潔に述べます。また、以下の点を確認してください。
- (1) 審査の際には、自分の信念や専門知識等で勝敗を決めるのではなく、あくまでも出場者の発言をもとにして審査を行います。特に英語面（発音等）だけを重視して決めないように注意してください。
- (2) 審査では、勝ちと思われるチームへの投票、およびもっとも説得的であった主張の選択を行

います。また各対戦でのベスト・ディベーターを一人選びます。ベスト・ディベーターはチームの勝敗を考慮して選ぶ必要はありません。

- (3) 審査員は審査以外に、例えばスピーチの声が小さ過ぎる時やスピーチが速過ぎる時、スピーカー以外が話している場合などは、ジェスチャーや短い発言で改善するように求めることができます。その上で、発言の理解が難しい状況が続く場合は、対戦後に教育的に示すと同時に、審査に影響が出た場合はそのことも告げることができます。
- (4) 審査員は原則として、大会事務局が依頼する本部ジャッジと各チームの帯同ジャッジとします。本部ジャッジは、原則として3回以上県大会等の審査員を務めたことのある経験者とし、帯同ジャッジは、高英研が認めた者（ルール13を参照）とします。帯同ジャッジは、自分の学校の審査はできません。もしそのような対戦の審査員に割り振られた場合は速やかに大会事務局に伝えてください。
- (5) 予選の審査員は2名とします。決勝トーナメントの審査員の人数については3名以上の奇数とし、大会事務局が別途示します。
- (6) 本大会の審査員によって決定された結果について、異議の申し立てはできません。

## 補足

### 1 不戦勝、不戦敗があった場合

やむを得ない事情により当日棄権等があった場合は、以下のようにします。

- (1) 第1基準の不戦勝のチームの得票数は、そのチームの他の試合の平均得票を四捨五入した数字をそのチームの不戦勝の試合の得票数として計算します（例：不戦勝が1回あった場合、該当チームの他の予選の対戦の得票数が「2, 1, 2」であれば平均が1.66になります。他の試合の得票数  $2 + 1 + 2 = 5$  に1.66を四捨五入した2を加えて、そのチームの予選での全得票数は「7」となります）。
- (2) 第2基準にある対戦相手チームの得票数については、不戦敗のチームの出なかった試合数を考慮して、不戦勝のチームが不利にならないように大会事務局は計算します（原則としては、出なかったチームがその試合で1票獲得していたものとして計算します）。

試合時間

肯定 4 人 チーム		スピーチ	時間	肯定 4 人 チーム
A 1	① 肯定	立論(Affirmative Constructive Speech)	4分	
		準備時間(Preparation Time)	1分	
A 1	② 否定	質疑(Questions from the Negative)	2分	N 4
	③ 否定	立論(Negative Constructive Speech)	4分	N 1
		準備時間(Preparation Time)	1分	
A 4	④ 肯定	質疑(Questions from the Affirmative)	2分	N 1
		準備時間(Preparation Time)	2分	
	⑤ 否定	アタック(Negative Attack)	3分	N 2
A 3	⑥ 肯定	質疑(Questions from the Affirmative)	2分	N 2
A 2	⑦ 肯定	アタック(Affirmative Attack)	3分	
A 2	⑧ 否定	質疑(Questions from the Negative)	2分	N 3
		準備時間(Preparation Time)	2分	
A 3	⑨ 肯定	ディフェンス(Affirmative Defense)	3分	
	⑩ 否定	ディフェンス(Negative Defense)	3分	N 3
		準備時間(Preparation Time)	2分	
A 4	⑪ 肯定	総括(Affirmative Summary)	3分	
	⑫ 否定	総括(Negative Summary)	3分	N 4

計 4 2 分